

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2015年11月12日

No.5

2015年度 年末手当妥結

基準内賃金×1.48カ月

2015年度 年末手当交渉最終報告

中央本部は第4回交渉以降、厳しい労働条件の中、職場で奮闘する組合員の想いに応えるために断続的に交渉・折衝を行ってきました。本日20時45分より年末手当の最終交渉に臨みました。

会社は席上①中間決算においてモーダルシフトの流れの中で営業施策の展開に加え、社員の力を結集したボトムアップ型のコストダウンによって、経常利益19億円を計上することが出来た。②一方で下期に入り、景気は一進一退の攻防が予想される中で動力費や線路使用料の増加も見込まれるなど不透明な要素がある。③今年度は中期経営計画の2年目であり、計画達成に向けた要の年になる。鉄道事業の黒字化に向けてこれまで以上に役員・社員が一丸となって取り組む必要がある。④よって今年末手当については1.48カ月とする。と回答しました。

これに対して中央本部は、①中間決算の業績から見れば今回の回答は要求に対して開きが大きい、貨物労組はこの会社の将来を憂いながらも、妥結することとする。②貨物労組にとって今回の手当交渉は、額はもちろん経営体質を問う交渉であった。職場では慢性的な要員不足や若年退職の歯止めがきかず技術継承や安全・教育問題が顕在化している。③さらに行き過ぎた業務の外注化により、これまででない事態が発生している。④鉄道事業部門の黒字化には、鉄道輸送の安全性を確保し、それを担う社員のモチベーションを高めることが極めて重要な課題である。このままでは黒字化どころか貨物会社存続が危ぶまれる状況であると言わざるを得ない。⑤労使共通の認識に立って、直ちに具体的な対策を講じることを強く要請しました。

会社は職場のおかれている重大な問題に対する労使協議を早急に設定することを表明したことを受けて、年末手当について妥結しました。

10月16日の申し入れ以降、「秋の闘い」と結合して職場から創意工夫した取り組みによって年末手当獲得交渉を支えていただいた事に対し、深く感謝を申し上げます。

職場では要員問題や安全問題など、解決しなければならない問題が山積しています。この闘いで培った組織力を発揮し、組合案の実現とたしろかおる応援プロジェクトの成功に向けて、職場から闘いをつくり出していこうではありませんか。中央本部はその最先頭で奮闘することを明らかにし、年末手当交渉の最終報告とします。

以上